

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項に基づく

中津市教育委員会施策の
点検・評価に関する報告書
(令和 3 年度対象)

令和 4 年 8 月 2 4 日

中津市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)	自己評価について	2
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	5
3.	施策毎の目標、達成状況等	6
(1)	表の見方	6
(2)	各施策の内容	7
III	学識経験を有する者の知見	39
IV	おわりに	45

I はじめに

1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

(1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務（教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。）の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

(2) 実施方法

①対象期間

令和 3 年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、「なかつ安心・元気・未来プラン 2017（第五次中津市総合計画）」（平成 29 年 3 月策定）及び「第 2 期中津市教育振興基本計画」（平成 31 年 3 月策定）に基づき各種施策を推進しており、令和 3 年度は重点的な 25 項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（教育産業建設委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の3つの着眼点で、5段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成（80%以上）
4	着実に進捗（相当程度達成・79～60%）
3	やや不十分（59～40%）
2	不十分（39～20%）
1	抜本的見直しが必要（19～0%）

(2) 総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

II 点検・評価

以下に、令和3年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

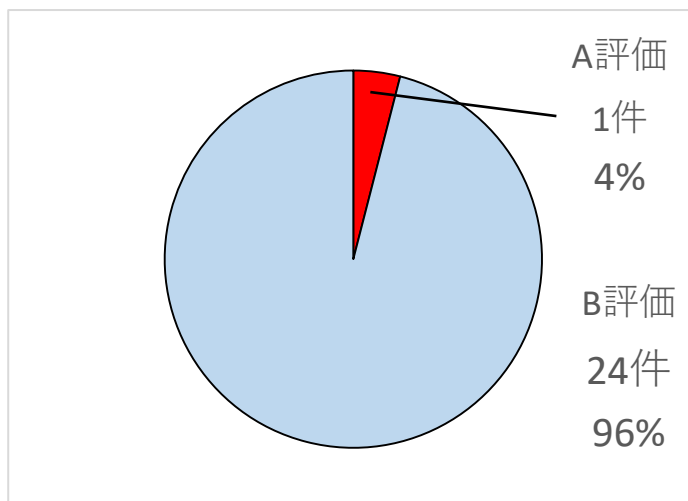
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (学校教育)	学校教育の充実 (義務教育の充実)	1 確かな学力の育成	4	B	学校教育課
		2 組織的ないじめ・不登校対策の推進	3	B	学校教育課
	学校教育の充実 (小・中・高・短期 大学との連携促進)	3 新しい時代に必要な総合力の育成	4	B	学校教育課
	学校教育の充実 (幼児教育の充実)	4 幼稚園教育内容の充実	4	B	学校教育課
	安心安全な学校施設の 計画的整備促進	5 安心安全な学校施設の計画的整備	5	A	教育総務課
	学校給食の充実	6 地産地消の推進	3	B	体育・給食課
学びたい教育の まちづくり (生涯学習・産 業教育の推進)	生涯学習の推進	7 生涯学習推進基盤の整備及び 公民館、コミュニティーセン ターの利用促進	3	B	社会教育課
		8 学習機会の拡充と学習効果の 活用	4	B	社会教育課
		9 新中津市学校の活用	5	B	社会教育課
	教育の協働の推進	10 協育による中津の子ども未来 創造事業の充実	3	B	社会教育課
	生涯学習センター「ま なびん館」の充実	11 生涯学習センター事業の推進	3	B	社会教育課
	産業教育の推進	12 体験学習・遠隔講座等を通した未 来を広げるキャリア教育の推進	3	B	学校教育課
		13 多様な体験の場の活用	3	B	社会教育課
図書館の充実	14 図書館機能の充実	4	B	小幡記念図 書館	
	15 読書活動の推進	4	B	小幡記念図 書館	

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (文化・スポーツの推進)	スポーツの振興	16 生涯スポーツの推進	3	B	体育・給食課
		17 競技力向上及びジュニアの育成	3	B	体育・給食課
		18 市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	4	B	体育・給食課
		19 東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致活動	3	B	体育・給食課
	文化・芸術活動の推進	20 文化施設の充実	4	B	社会教育課
		21 文化芸術活動の推進	4	B	社会教育課
	歴史と文化の伝承	22 文化財調査の充実と保護の促進	4	B	社会教育課
		23 文化財整備・活用の推進	4	B	社会教育課
		24 博物館を核とした中津市の魅力発信	4	B	社会教育課
	学びたい教育の まちづくり (教育委員会活動の充実)	教育委員会活動の充実	25 教育委員会の機能強化	4	B

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価1件、B評価24件となりました。

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本の見直しが必要

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響が続き、収束の見通しが立たない中、活動に対する制限を余儀なくされました。しかしながら、ウィズコロナ社会の新しい生活様式が浸透し、学校及び関係各機関、個人においてもICT環境が徐々に整い、25項目の施策は取り組みを進めることが出来ました。前年度に結果が出せなかった施策においても着実に成果が見える状況であります。

A評価の施策である「安心安全な学校施設の計画的整備」では、今後の学校施設の適切な維持管理を進めていくために令和3年3月に策定した「中津市学校施設長寿命化計画」に則り、老朽化対策及び教育環境の改善に努め、学校施設の長寿命化改修、予防改修、トイレ洋式化改修等を行ったものです。小学校3校（豊田小、小楠小、上津小）及び中学校3校（中津中、今津中、三光中）のトイレ洋式化改修を実施し洋式化率は令和3年度末で95%となり、目標値を上回りました。また、劣化の著しい、南部小学校屋内運動場防水工事、三郷小学校校舎長寿命化工事を実施しました。今後も、計画に則り施設整備を進めるとともに、状況に応じた計画の見直しを随時行っていきます。

その他の施策においては、コロナ禍における事業縮小や行動自粛などの制限がある中、ICTを活用するなどの工夫を凝らし、成果を出すことが出来ました。取り組みの改善を要するような評価はありませんでしたが、今後も引き続き高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続して取り組んで参りたいと考えています。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	学びたい教育のまちづくり (学校教育)	A	学校教育の充実（義務教育の充実）
		B	学校教育の充実（小・中・高・短期大学との連携促進）
		C	学校教育の充実（幼児教育の充実）
		D	安心安全な学校施設の計画的整備促進
		E	学校給食の充実
2	学びたい教育のまちづくり (生涯学習・産業教育の推進)	F	生涯学習の推進
		G	教育の協働の推進
		H	生涯学習センター「学びん館」の充実
		I	産業教育の推進
		J	図書館の充実
3	学びたい教育のまちづくり (文化・スポーツの推進)	K	スポーツの振興
		L	文化・芸術活動の推進
		M	歴史と文化の伝承
4	学びたい教育のまちづくり (教育委員会活動の充実)	N	教育委員会活動の充実

(2) 各施策の内容

No	分類			目標
	大	中	小	
1	1	A	確かな学力の育成	<p>「全国学力学習状況調査」で全ての小中学校で全国平均以上を目指す。小学校6年生（国語・算数）、中学校3年生（国語・数学）</p> <p>中津市標準学力調査で、各教科・学年のC層の児童・生徒の割合を減らす。</p> <p>ICT活用教育の推進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「新大分スタンダード」の徹底・充実による言語能力の更なる育成 ○新学習指導要領の理解と確実な実施 ○小・中連携による、子どもが主体的に学ぶ授業の確立 ○各種学力調査分析・活用による授業改善の推進 ○iPadの日常的な活用の推進

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○全国学力学習状況調査で全国平均以上の学校数 小学校 6 年生（国語と算数の合計が全国平均以上の学校数 13 校/20 校 中学校 3 年生（国語と数学の合計が全国平均以上の学校数 6 校/10 校 ○中津市標準学力調査で、各教科・学年の C 層状況 R2 年度（27%～43%）⇒R3 年度（26%～47%） ○ICT 活用教育の推進 授業において児童生徒がタブレット端末などの ICT を使った 学習の実施率 ほぼ毎日・・・90% 月 1 以下・・・0%</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性 学力調査結果は、全国平均以上の学校数については、小学校は 13 校と、令和 2 年度の 16 校から減少している。一方中学校は令 和 2 年度の 5 校から 6 校に増加している。授業改善が充実してき ている小学校は県・全国平均を上回っているものの、全体として は下降傾向であることから、授業改善と短期集中講座、補充学習・ 家庭学習と連動した学力向上の取り組みのサイクルの徹底を図 っていく必要がある。また、中学校では、英語科の基礎・基本の 定着に課題があることから、e ライブラリの活用など、個別最適 な学びを保証していく。</p>	3	B	4	B	学校教育課

No	分類			目標
	大	中	小	
2	1	A	組織的ないじめ・不登校対策の推進	<p>不登校（不登校を理由に年間 30 日以上欠席）の児童生徒数の減少を目指す。 （目標値 1,000 人当たりの不登校数小学校 6.0 人、 中学校 33.0 人）</p> <p>また、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を徹底する。 （目標値 いじめの解消率 85.0%）</p> <p>○生徒指導の 3 機能を活かした教育活動の推進（「学びに向かう学校づくり」等）</p> <p>○校内組織（いじめ・不登校防止対策委員会）の強化、OJT による学級経営力・児童生徒指導力の育成</p> <p>○人間関係づくりプログラムの取組の推進</p> <p>○学校と SC（スクール・カウンセラー）、SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）、地域児童生徒支援コーディネーター、教育相談コーディネーター、適応指導教室、関係機関等との連携強化</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○不登校(不登校を理由に年間30日以上欠席)の状況にある1,000人当たりの人数の推移</p> <p>小学校 R2 10.2人 R3 7.4人 (-2.8人)</p> <p>中学校 R2 34.2人 R3 41.3人 (+7.1人)</p> <p>○いじめの認知件数</p> <p>小学校 R2 1,027件 R3 1,102件 (+75件)</p> <p>中学校 R2 96件 R3 128件 (+32件)</p> <p>○いじめの解消率(いじめのない状態が3か月間継続した状態)</p> <p>小学校 R2 83.3% R3 80.5% (-2.8%)</p> <p>中学校 R2 79.2% R3 85.9% (+6.7%)</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○不登校児童生徒の減少に向けた要因の分析と対応・支援の見直しを行う。</p> <p>○児童生徒への学習支援を拡充する。(中津市教育支援センターの不登校支援の充実、ICTの活用)</p> <p>○組織的な対応を強化し、未然防止、早期発見・組織的支援を推進する。</p> <p>○「人間関係づくりプログラム」や「情報モラル教育」を通して、いじめ・不登校の未然防止を図る。</p>	3	B	3	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
3	1	B	新しい時代に必要な総合力の育成	<p>意見や考えを英語で伝え合いたくなる授業づくりを目指し、学習内容の定着につながる体験的な学習や家庭学習等の連動を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中の学びをつなぎ、伝え合う意欲と力の向上を図る授業改善 ○ALT を活用した体験学習（英会話教室や APU 交流等）の充実 ○ふるさと学習や総合的な学習での地域探究学習の充実 ○CEFR-A1 レベル相当以上の取得

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○求められる英語力を有する（英検 3 級取得者+3 級以上相当の力を有する）中学 3 年生の割合が 32.7%⇒41.8%</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響で APU 側の受け入れ中止を受けて English Camp を中止とした。</p> <p>○中学生の英会話については参集型からオンライン実施と変更した。（20 名参加 満足度 100%）</p> <p>○わくわく英語ひろば・・・感染症対策・人数制限にて実施（令和 3 年度 16 名参加 満足度 100%）</p> <p>○感染症の影響を受け、R2 年度はほとんどの活動を中止としたが、R3 年度はオンラインや人数制限をして実施できた。 また、小学校教職員対象の「ティーチャーズオンライン英会話教室を開催し、指導者のスキルの向上を図った。</p> <p>○ふるさと学習の一環で取り組んでいる「まちなみ歴史探検」については新型コロナ感染症の影響を受け、実施を中止した学校もあったが、ほとんどの小学校で実施できた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○JGL については昨年度同様募集停止している。今後 JGL 研修の在り方については検討が必要である。</p> <p>○その他のグローバル人材育成に関する取組については、コロナ禍で実施できるように対応を変更してきたが、APU の English Camp だけは、受け入れ側の対応次第で実現が難しいところが課題と言える。</p> <p>○求められる英語力を有する中学 3 年生の割合 50%を達成するために、中学生英検塾を拡充、再周知するとともに、全中学校で実施するスピーキングテストを通して、4 技能の向上に向けた中学校の英語の授業改善に取り組んでいく。さらに、ふるさと学習の主な取り組みである「まちなみ歴史探検」について感染症対策を講じて秋に実施予定としている。</p>	3	B	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
4	1	C	幼稚園教育内容の充実	<p>「中津市幼児教育振興プログラム」についての研修・実践交流を推進する。</p> <p>幼保小連携協議会の一層の充実、円滑な接続に向けた取り組みの充実を図る。</p> <p>円滑な接続に向けた取り組みの充実を図る。</p> <p>○保幼小の連携と接続期カリキュラムの充実</p> <p>○官民一体となった「中津市乳幼児教育振興プログラムあそびのすすめ」の実践・研修の充実</p>
5	1	D	安心安全な学校施設の計画的整備	<p>令和3年3月に策定した中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、老朽化対策及び教育環境の改善に努めるため、学校施設の長寿命化改修、予防改修、トイレ洋式化改修等を行う。</p> <p>○中津市学校施設長寿命化計画の計画的な実行と進捗管理を行う。</p> <p>○学校施設の長寿命化改修、予防改修、トイレ洋式化改修 (国庫補助金の確保及び対策、トイレ洋式化改修率85%目標)</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○新型コロナウイルス感染症の影響で、「中津市乳幼児教育振興プログラム（あそびのすすめ）」についての研修や、「第1回中津市保幼小連携協議会」も中止となった。しかし、「中津市保幼小連携研修会」は7月に参加人数を絞って実施できた。また「第2回中津市保幼小連携協議会」は、令和4年1月上旬に時間を2回に分ける対策を行い、実施することができた。その中で、小学校と幼稚園・保育所・こども園の職員で、園児や小学校1年生の様子の情報交換や、授業実践交流を各小学校区のグループ協議の中で行い、円滑な接続に向けて取組ができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○保幼小連携協議会等において、グループごとに実践交流や保育の事例報告などを行い、就学前後の保育・教育の更なる相互理解を図っていく。また、現在の小1の実態を踏まえたアプローチカリキュラムの修正、および園児の実態を踏まえたスタートカリキュラムの修正ができるように共有の場を設定する。</p> <p>○幼児教育アドバイザーが、市内全幼稚園・保育所を訪問し、各園へ支援・助言を行う。</p>	4	B	4	B	学校教育課
<p>○小学校3校（豊田小、小楠小、上津小）及び中学校3校（中津中、今津中、三光中）のトイレ洋式化改修を実施し、校舎におけるトイレ洋式化率は95%となり、目標値を上回った。</p> <p>○中津市学校施設長寿命化計画及び第五次中津市総合計画に基づき、劣化が進んでいる校舎や屋内運動場の長寿命化改修を実施した。また、予防改修を適宜実施した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○国庫補助金を最大限活用し、計画に沿った学校施設の長寿命化、予防保全等の整備を行う。</p> <p>○小中学校の校舎のトイレは、令和4年度に予定している改修工事で洋式化率が100%となる。しかし、屋内運動場や武道場、屋外のトイレに関しては改修未実施校があるため、予算の範囲内で、老朽化による修繕と並行しながら洋式化改修を進めていく。</p> <p>○計画作成時点から、さらに老朽化が進んでいる施設や設備を見落とさないように注視することや、自然災害による損壊なども視野に入れ、実情に応じた計画の見直しを随時行っていく必要がある。</p>	4	A	5	A	教育総務課

No	分類			目 標
	大	中	小	
6	1	E	地産地消の推進	<p>JA や漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図る。 新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。</p> <p>○学校給食地産地消推進会議を通じて、農政水産担当部署、JA、漁協、生産者等と地場産食材の利用拡大に取り組み、生産者の育成等に関する協議の場とする。 ○地場産食材を活用した新献立を継続して開発する。 ○地産地消献立を通じて、子どもたちに学習意欲や郷土への関心を感じさせる工夫に努める。</p>
7	2	F	生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進	<p>公民館、コミュニティーセンターの利用者の確保。自主サークル活動の育成。公民館、コミュニティーセンター等、社会教育施設の整備を図る。</p> <p>○住民ニーズの把握と新規学習内容の開拓による魅力ある学習内容の提供と利用の啓発。 ○サークルの活動、募集の支援及び新規サークルの立ち上げ支援。 ○三光公民館整備事業（改修工事、9月開館） ○西谷地区公民館整備事業（公民館開館、体育館部分の改修工事） ○耶馬溪公民館整備事業（測量・実施設計） ○その他老朽化した公民館の設備等の改修</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○R3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校給食地産地消推進会議の開催を断念したが、JA、漁協と直接交渉することにより、長期単価契約を結んでいる野菜（玉ねぎ、じゃがいも、人参）以外の季節の青果物（きゅうり、ピーマン、いちご、梨）や、はものすり身やべたの一夜干し等の中津市産の食材を給食に取り入れることが出来た。</p> <p>○新たに中津市の農産物を使って加工品づくりを行うグループ「おはら果樹園大分・工房たまてばこ」の加工品で、なかつ6次産業推奨品でもある「おいしいこめみそ」の給食への活用に向けて、協議を行うことが出来た。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○より多くの地元産食材を効率よく使用できるよう、規格の調整等、各関係機関と各共同調理場で個別に協議を行っていくことが必要である。また、地元生産者との直接契約についても検討し、地場産物の利用拡大に向けて取り組む必要がある。</p> <p>引き続き、他市の地産地消の取り組みの状況を参考にしながら、各関係機関と連携し、より多く子供たちに安全で安心な地元食材を提供できるように、工夫していきたい。</p>	4	B	3	B	体育・給食課
<p>○公民館、コミュニティーセンター（山国公民館を除く）の年間利用者数は、109,673人（R2 89,187人）で、昨年度より増加している。新型コロナ感染防止対策をとったこと、ワクチン接種が進んだことなどが理由として考えられる。しかし、感染を恐れてまだ自宅に籠っている人も多いと考えられる。コロナ以前に比べるとまだ半数ほどである。</p> <p>○市主催の公民館講座等、どこの講座学習参加者も例年より少ない状況で、自主サークル活動においても一年間の活動を中止するところもあった。</p> <p>○毎年それぞれ公民館、コミュニティーセンターで盛大に開催される祭りについては、3密を避けることが難しいという判断で、すべて中止となった。</p> <p>○公民館、コミュニティーセンターの建設事業については、計画通り進行することができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○引き続き施設の感染防止対策を徹底しながら、ウィズコロナ期の公民館活動のあり方を模索し、現在自粛をして家に引きこもりがちになっている高齢者などが再び戻ってくるような公民館運営を工夫していく必要がある。市報等を通して参加を呼びかけ公民館に講座の参加者が戻ってくるようにしていきたい。</p> <p>○施設整備においては、耶馬溪公民館の解体・造成を行う。また老朽化施設の設備等の改修などを十分に検討し必要に応じ行う。</p>	3	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
8	2	F	学習機会の拡充と学習効果の活用	<p>ウィズコロナ下での生涯学習の推進をし、学びを通じた社会に貢献できる人材の育成や「ふるさと学習」の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染予防対策をとりながら、工夫した取り組みにより生涯学習の機会を増やす。 ○学んだ成果を活かせる場を地域学校共同活動を中心につくっていく。 ○子どもたちが安全、安心に参加でき、体験活動を重視した「ふるさと学習」の実施。 (福沢諭吉記念事業、子ども中津検定・ジュニア諭吉検定、ワンパク!たんけん中津、青少年地域活動事業、中津ジュニア歴史ガイド育成、公民館独自講座 等)
9	2	F	新中津市学校の活用	<p>市民講座の開催(市民講座:4回、高校生向け講座:2回、その他:6回)。慶應義塾大学との共同研究の推進。歴史資料の保存活用・公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○慶應義塾より講師を招聘し、市民講座(全4回)、高校生向け講座(全2回)を開催する。その他、小中高生を対象とし国内外で活躍した経験を持つ中津市民などを講師としたグローバル講座(全6回)を開催予定。 ○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」を行う。 ○市民の利用促進に向け、各種媒体を活用した広報活動、学校、各種団体への周知等を行う。

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○公民館、コミュニティーセンターでの主催講座は、コロナの感染防止対策のため講座生の自粛により、参加人数は減少した。</p> <p>○「ふるさと学習」の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福澤諭吉記念事業は全国高等学校弁論大会は留学生弁士（タイ）も含めて 26 人出場、近郊小中学校書写展 1,490 点応募、諭吉かるた大会 低学年 12 チーム 高学年 20 チーム 参加。 ・子ども中津検定は 33 人受験、ジュニア諭吉検定は 8 人受験。 ・ワンパク！たんけん中津は日帰りの開催となり、6 人の参加。 ・青少年地域活動の三保人形劇クラブは 10 人、練習成果を披露する「万年願」は中止。 ・中津ジュニア歴史ガイドは 5 人の小学生が 3 月の歴史探検ウォークラリーで実際にガイドを行った。 <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○自粛により、学習活動に参加しない高齢者がまだまだ多いところが課題であるが、この 1 年で感染防止対策を徹底しながらも、創意工夫により効果的な活動が展開できることが見えてきた。ウィズコロナ、アフターコロナ下における生涯学習の推進という新たな課題に取り組みながら、学習機会の充実と学習効果の活用を図っていきたい。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○高校生向け講座については新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を見送ったが、市民講座（全 2 回）については、慶應義塾より講師を招聘し、オムニバス形式を取り入れるなど、オンラインを併用しながら実施できた。</p> <p>○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」等を行い、中津の偉人に関する貴重な資料の発見につながった。また成果を、不滅の福澤プロジェクトのキックオフ事業である、企画展「華麗なる福澤家の人々」において展示し市民へ還元することができた。</p> <p>○テレビ、雑誌、新聞など様々なメディアの取材対応、学校での出前授業など様々な外部対応を行うことで新中津市学校のさらなる周知に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○慶應義塾より講師を招聘し市民講座（全 3 回）、高校生向け講座（全 2 回）を開催する。そのほか不滅の福澤プロジェクトと連携して、親子市民講座や「中津留別之書」翻訳本を利用した英語スピーチ大会等に取り組む。</p> <p>○偉人顕彰事業である小幡篤次郎・渡辺家の共同研究を引き続き進め研究成果を展示や講座等で市民へ還元する。</p> <p>○令和 3 年度に締結した「慶應義塾と中津市との連携に関する協定書」に基づき、人材育成・共同研究・学習交流・市民参加を一層進めるため慶應義塾との連携を深めていく。</p>	5	A	5	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
10	2	G	協育による中津の子ども未来創造事業の充実	<p>コミュニティ・スクール導入校における効果的なネットワーク会議との連携を促進する。また、感染予防対策をとりながら、地域と学校の協働により、学校内外での子どもの育成を推進する。</p> <p>○コミュニティ・スクールを推進する中で、従来の校区ネットワーク会議との効果的な連携の方策を協育コーディネーターを介して把握し、学校運営協議会と校区ネットワーク会議の効果的な連携のしくみを構築していく。</p> <p>○支援者や学校、児童クラブと十分に連携を図り、子どもたちの安全、安心を確保しつつ、学校支援活動、学習支援活動、放課後や週末の体験活動の充実を図る。</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○学びのススメ土曜塾では、実施校区を令和3年度より全中学校区に広げ10校で実施した。</p> <p>土曜塾実績…10校、講師17人、生徒93人、29回実施</p> <p>○コロナの感染状況を見ながら、外部の人を入れることをできるだけ控えるという学校の感染防止対策により学校支援活動は始まったが、学校との協議により中止した活動も多くあった。</p> <p>学校支援活動年間実績…年間支援回数 1,716回、支援者数 11,148人 (R2 1,506回、9,609人)</p> <p>○放課後子ども教室は、放課後や土曜日に地域住民と子どもが交流する活動のため、事前のコーディネーターとの感染防止対策の協議、予防グッズの準備などを行い、実施することができた。</p> <p>放課後子ども教室年間実績…24教室、569回、大人実数188人、子ども実数755人 (R2 24教室、571回、238人、子ども924人) 活動回数は、やや減少しているが、感染防止対策が可能な活動は、コーディネーターや指導者の管理のもと、安全に実施できた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○学校支援活動は、感染防止対策について学校と情報交換しながら、安全面に配慮して実施していく。放課後子ども教室はコーディネーターに指導、助言をしながら、同じく安全面に配慮して実施していく。また、コーディネーターの高齢化が懸念される。計画的にコーディネーターを育成していくことが必要である。</p> <p>○コミュニティ・スクールとの関係については、運営する上で、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割が重要となるので、学校運営協議会の委員に協育コーディネーター(館長)を配置し、学校支援活動を行うための校区ネットワーク会議と効果的な連携を図り、コミュニティ・スクールを活性化させていく。また、家庭教育については、『家庭教育ノススメ』の周知と実践につながる取り組みを行っていく。</p>	3	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
11	2	H	生涯学習センター事業の推進	<p>通年・短期講座受講の確保や中津市生涯学習大学の充実と受講者の確保並びに、利用サークルの確保。</p> <p>○ニーズの把握による開設講座の見直しと学習内容の充実。 ○新規講師の開拓。 ○感染拡大防止対策をとりながらも、学習しやすい施設、設備の充実と日常の安全、安心な環境整備。</p>
12	2	I	体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進	<p>職場訪問・職場体験の充実を図る。また、「中学生のハローワーク」の活用の推進や遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進を図る。 個人用タブレット端末を活用したキャリア教育を充実させる。</p> <p>○関係団体との積極的な連携 ○短期大学等との積極的な連携</p>
13	2	I	多様な体験の場の活用	<p>子どもたちが、正しい職業観を身につけ、自分の将来を考える時に選択の幅が広がるような多様な体験の場を提供する。</p> <p>○「職人フェスティバル」の実施。 ○少年少女発明クラブの充実。</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○生涯学習センターの年間利用者数は、18,535人（R2 13,034人）で、昨年より5,000人ほど増えている。しかしコロナ以前に比べると、まだ8,000人程度利用者が少ない状況である。</p> <p>○生涯学習センター「まなびん館」で開催している生涯学習大学は受講者実人数は467人（平均年齢72歳）で、コロナによって申し込みを控える人が増えたため、昨年度より80人減少している。開講式、閉講式及び大学祭も中止となった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○生涯学習センターの利用者の減少には、自粛により足が遠のいている傾向がある。今後、ウィズコロナの事業のあり方を模索し、利用者が安全、安心に学習ができ、学習意欲の低下を招かないように、学習環境の整備と魅力ある学習を提供していく。</p>	3	B	3	B	社会教育課
<p>○令和3年度も、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染の拡大を受け、職場訪問は実施できなかったが、各中学校で資料やICTを活用し、創意工夫して行うことで、職業観を養うことができた。「中学生のハローワーク」については、職場訪問が実施できなかったことから活用が進んでいない。</p> <p>○短期大学とは、本耶馬溪中学校が、工科短期大学において体験学習や施設見学を行う等、連携を深めることができた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>新型コロナウイルス感染症が感染拡大傾向にあると、児童生徒の職場体験や施設訪問が縮小され、実体験を通じた十分なキャリア教育の実施が難しくなることが課題である。ICT活用や関係団体、ゲストティーチャーに学校に来てもらうなどの多様な方法で実施しながら、キャリア教育の確実な実施、充実を目指していく。</p>	3	B	3	B	学校教育課
<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために、職人フェスティバルは中止。</p> <p>○少年少女発明クラブは、20名で活動をした。コロナ対策により発明工夫展の出品や合宿などは中止となった。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○職人フェスティバルについては、コロナの感染拡大状況を注視しながら開催日を設定する。また、これまでの7月の暑さが厳しい時期の開催は、マスク着用による熱中症予防を考慮して、秋の開催も視野に入れる。（9月に観月祭とあわせて実施の予定）</p> <p>○発明クラブは、活動時の3密をできるだけ避けるため、最小限に募集する方向で、6月から月1回開催していく方向である。</p>	3	B	3	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
14	2	J	図書館機能の充実	<p>安心して来館できる環境づくりを目指し、市民ニーズに沿った図書館運営と利用率の向上、新中津市学校、村上記念童心館、木村記念美術館、歴史博物館等の近隣文化施設と一体化した連携を行い図書館利用の促進と利用者へのサービスの向上を図る。また、新規利用者の獲得のための手段や情報発信の方法を検討し、実施を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会情勢などの情報収集を行い、状況に応じた図書館運営を行う。 ○図書館利用者の増加を目指すため、図書館だより等の広報活動を再考し、現在、活動を行っていない場所で情報発信を行うことで、今まで図書館を利用していない市民の方に図書館の利便性を周知し、利用者増を図る。 ○社会教育課や子育て支援課などと協力、連携し近隣文化施設との導線づくりを図る。 ○夏休み期間中の開館日に学生等に閲覧室、視聴覚室を学習スペースとして開放する。 ○各支所の分館ごとに地域特性を活かし、利用実態を分析し、利用者増に結びつける。 ○赤ちゃん読み聞かせ事業の充実、学校・ボランティア等と連携し、調べ学習や読み聞かせ資料の充実を図る。 ○移動図書館のサービスポイント見直しや、施設等の団体貸出の要望調査を行う。

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○コロナの感染状況に応じた感染対策や図書館運営、利用者のニーズに沿った図書館サービスの提供、図書館だより等によるイベントや図書館サービスのPR、近隣文化施設との連携、児童クラブを対象にした団体貸出のPR などにより目標はおおむね達成した。</p> <p>○コロナの影響で落ち込んだ貸出冊数、利用者数は、順調に回復してきている。</p> <p>【年間延べ貸出冊数、延べ利用者数の比較】 個人利用 R2 345,101 冊、77,694 人 → R3 452,929 冊、102,327 人 (前年比 +107,828 冊、+24,633 人) 団体貸出 R2 44,816 冊、2,196 団体 → R3 50,342 冊、2,244 団体 (前年比 +5,526 冊、+48 団体) ※R3 新規登録 8 団体</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○コロナの影響で図書館から足が遠のいている利用者や新規利用者の獲得を図る</p> <p>○新規利用者の獲得のための PR と利用者のニーズに応じた図書館運営に努める。</p> <p>○近隣文化施設との連携による文化ゾーンを確立する。</p>	3	B	4	B	小幡記念図書館

No	分類			目 標
	大	中	小	
15	2	J	読書活動の推進	<p>安心して来館できる環境づくりを目指し、学校図書館やボランティアグループなどとの連携による読書活動の推進、新中津市学校、村上記念童心館等の近隣文化施設と連携し読書の促進を図る。また、読み聞かせ事業や読書週間行事の充実を図る。</p> <p>○社会情勢などの情報収集を行い、状況に応じた図書館運営を行う。</p> <p>○関係機関と連携し、第2次中津市子ども読書活動推進実施計画を遂行していく。</p> <p>○学校司書や読み聞かせボランティアと連携を密にし、研修や情報交換を行うことで子どもの読書推進を図る。</p> <p>○読書週間のイベントや分館ごとに地域特性を活かした行事を行い読書活動の推進を図る。</p> <p>○HP や図書館日より、市報などで、常に読書推進に関する情報発信を行う。</p> <p>○おはなし会や、あかちゃんタイム（コロナにより休止中）、赤ちゃん絵本事業などで乳幼児から絵本に触れてもらうことで読書推進に繋げる。また、再開に向けた対策・対応を検討する。</p>
16	3	K	生涯スポーツの推進	<p>大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。また、様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れあえる機会を増やし、定住圏域住民のスポーツ振興を図る。</p> <p>○例年5月に行っている「健康づくりの日」（施設開放）を本年度は7月に行い、オリンピック・パラリンピックへの機運醸成を図りつつ、市民の健康づくりをサポートする。</p> <p>○市内の体育施設を利用して、様々なスポーツ大会や各カテゴリーの大会を誘致し、誰もが身近にスポーツと接する機会を増やす。</p> <p>○本年度もオリンピックデーランを開催し、定住圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントとして開催する。</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○変異株の乳幼児への感染が確認されたことから、状況に応じて赤ちゃんおはなし会等中止するなど、感染対策を継続しつつ、安心して来館できる環境づくりをおこなった。赤ちゃん絵本の読み聞かせ事業や夏休み工作あそび教室、小学生図書館バックヤードツアー、社会科見学など、学校司書やボランティアと連携をとり、読書活動を推進した。</p> <p>○なかはくの特別展示とコラボした企画展示やヤングアダルト世代を対象にした図書館だよりの発刊、児童クラブへの団体貸出のPR、図書館おすすめ本リストの更新、図書館講座の開催などにも取り組んだ。耶馬溪図書館においては、耶馬溪鉄道や頼山陽などの地域に関連する企画展示を行い、市報回覧を利用してPRすることで地域住民等の来館を促した。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○「読書離れ」や「活字離れ」へ対応する。</p> <p>○第2次子どもの読書活動推進活動実施計画に基づいた施策を実施する。</p> <p>○実施したアンケート調査でニーズの高かった事案についての検討、実施する。</p>	3	B	4	B	小幡記念図書館
<p>○コロナ禍の状況で中止となるイベントもあったが、オリンピック聖火リレー（4月）、ドリームベースボール（10月）、諭吉マラソン大会（11月）、福岡ソフトバンクホークス甲斐拓也選手自主トレ（1月）が開催され、スポーツに触れ合う機会の創出が図れた。</p> <p>○感染者が拡大した時期もあったが、その都度施設利用基準や大会開催基準などを協議し、スポーツを行える環境の確保に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○コロナ禍が続く状況ではあるが、感染対策を講じ、様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やしていく。</p>	3	B	3	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
17	3	K	競技力向上及びジュニアの育成	<p>市スポーツ協会や競技団体、学校、地域、企業などが連携し、人材の育成・強化に努める。</p> <p>○競技力の向上及び優秀な選手やジュニアの育成のために、優れた指導者の確保や育成が必要であり、全ての競技団体に「公認スポーツ指導者」や「スタートコーチ」、「コーチングアシスタント」等の資格取得を支援・推進していく。</p>
18	3	K	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	<p>市民のスポーツニーズに対応した施設の整備を行うことで、施設利用満足度を高め、多機能多目的な施設利用に柔軟に対応し、利便性の向上を図る。</p> <p>○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを計画して行く。</p> <p>○市民要望の高い種目や競技に対応する施設整備及び、多機能多目的な施設利用に対してのルール作り等を行っていく。</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○スポーツ少年団の説明会において、指導者資格の説明を行い、制度への理解と資格取得、更新の手続き等を促した。</p> <p>○8月には市独自のスポーツ少年団指導者・スタッフ研修会を行い、子どもたちにとってより良いスポーツ環境を提供できるよう啓発を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○競技団体へは指導者資格の取得やスポーツ少年団への加入を推進していく。</p> <p>○指導者や保護者、関係者向けの指導に関する講習会を定期的実施し、研修の場を設ける。</p>	3	B	3	B	体育・給食課
<p>○令和3年4月1日より中津市体育施設予約ポータルサイトを稼働し、インターネットでの施設予約を可能とし、カード決済も導入し、施設利用者の安全性や利便性の向上に努めた。</p> <p>○利用者ニーズを踏まえ、施設整備や施設の利便性向上のための改修や修繕を実施。</p> <p>○耶馬溪 B&G 海洋センターの改修を行い、プールの屋根の改修、照明のLED化、更衣室、トイレのバリアフリー化等を実施し、利用者の利便性の向上に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○コロナ禍の状況でも誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを行っていく。</p> <p>○市民のスポーツニーズに沿った市の振興に繋がるような施設にすべく整備を行っていく。</p> <p>○将来の財政負担や利用見込み等総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく。</p>	4	B	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
19	3	K	東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致活動	<p>覚書を締結した内容を基にマレーシアのオリンピック・パラリンピック選手団の事前キャンプ誘致を進めていく。</p> <p>○東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致として、覚書を締結した内容を基に誘致を進めて行く。</p> <p>○オリンピックキャンプ誘致アドバイザーである薬師寺氏(元 JOC 理事)を通じ、マレーシア国立スポーツ評議会及び、日本オリンピック委員会、日本マレーシア協会などに働きかけを行っていく。</p>
20	3	L	文化施設の充実	<p>市民生活の質を高め、楽しめる文化的環境づくりを推進する。また、文化芸術活動の場としての施設の整備・充実に努める。</p> <p>○子どもから高齢者まで全ての市民が、鑑賞や自らの発表の場として文化施設を活用できるよう、施設の充実、利用機会の拡充に努める。</p> <p>○建設後 40 年以上経過している中津文化会館について、市民が安全にかつ快適に施設を利用できるよう、老朽箇所等について必要な改修等を行う。</p> <p>【R3 年度整備予定】 中津文化会館及びリル・ドリーム音響設備更新工事</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○4月23日、オリンピックの機運醸成として、中津市本耶馬溪地区にてオリンピック聖火リレーが行われた。</p> <p>○7月6日、マレーシアよりコロナ禍の状況を勘案し、オリンピック・パラリンピックの中津市での事前キャンプ中止の書簡が届く。</p> <p>○R2年度に実施したオリンピック聖火展示事業において参加いただいた福岡ソフトバンクホークスの甲斐拓也選手にオリンピックレガシー事業の一環として、中津市での自主トレを誘致し、東京2020オリンピック野球競技にて獲得した金メダル展示を行った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○オリンピック・パラリンピックのレガシー事業として、今後も関連イベントを開催することで、多様性や公平性などのオリンピックイズムを育むとともに、スポーツがもたらす効果を広めていく。</p>	3	C	3	B	体育・給食課
<p>○中津文化会館及びリル・ドリームについて音響設備更新工事、その他必要な設備修繕を行い、幅広い年齢層の利用者が快適に使用できるよう整備に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○安心して文化芸術を楽しむために設備の充実や安全性は重要な要素となる。</p> <p>○老朽化する施設の安全性を維持するために、整備の必要性や優先度を十分に検討し計画的に対応していく。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
21	3	L	文化芸術活動の推進	<p>国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。</p> <p>各施設においては、多様な文化・芸術活動を展開しているが、より多くの市民が、質の高い芸術文化に親しむ場、また自らの活動の発表の場としても利用いただけるよう、情報の発信と活動の充実を図る。</p> <p>○中津文化会館、リル・ドリームについては昨年度と同様に、指定管理者に「市民ニーズの把握とイベントの検証による事業の発展」「収益率と使用率の向上」「職員の育成、組織力強化」「安心・元気・未来プラン 2017 の推進」を条件に附しており、市も協力して取り組む。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、中津市歴史博物館と連携し合同企画展等を実施するなど、事業のさらなる充実強化を図る。</p> <p>○市報やHP、ラジオ等、あらゆる媒体を利用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。</p>
22	3	M	文化財調査の充実と保護の促進	<p>有形・無形・埋蔵文化財の調査・実態把握につとめる。また、文化財保護の活動に市民の巻き込みをはかる。</p> <p>各地に分散している民具・埋蔵文化財の収蔵環境の改善と施設の将来的な集約を目指す。</p> <p>○文化財の調査・研究を行い、各委員会の意見をふまえて保護の方法を検討する。(羅漢寺・相原廃寺等)</p> <p>○新指定を目指すもの、指定の格上げを行うものについて検討し、指定の準備、申請を行う。</p> <p>○「文化財保存活用地域計画」策定のための市内文化財基礎調査に市民の参加を促す。</p> <p>○文化財収蔵施設の状況把握を行い、施設の集約と収蔵計画の方針を検討する。移動可能なものから、適切な環境への収蔵を行う。</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○中津文化会館において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、感染症対策を徹底した上で、劇団四季ファミリーミュージカルや滝川鯉斗独演会等を開催し、多くの市民から好評を得ることができた。</p> <p>○木村記念美術館においては、「中津アートトライアングル」を開催し、美術企画展（糸園和三郎展）、光のアートイベント（影絵劇の制作・上演等）、若手アーティストの個展などを実施し美術館事業の充実を実現できた。</p> <p>○市報・HP・ツイッターに加え、大分合同新聞での全面広告の効果により、市内だけでなく市外からの誘客につなげた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化芸術団体等との連携を深め、感染症拡大防止と文化芸術の振興を両立しながら事業活動をすすめていく。</p> <p>○国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、新たに東アジア文化都市事業として取り組みの内容を充実させ、芸術文化による地域振興を図る。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、歴史博物館や美術団体との連携等により、事業のさらなる充実強化を図る。</p>	4	B	4	B	社会教育課
<p>○羅漢寺は文化庁の指導を受け、委員会で検討をし、保護の方針を決定。3年度に引き続き、4年度も補助金申請を行うことができた。相原廃寺は、基壇の樹木伐採や土嚢による保護を行い、当面の処置を施した。9年間行ってきた「中近世城館調査」は、多くの地域の方々のご協力を得て想定以上の成果をあげた。全国的にも誇れるレベルの調査報告書として刊行することができ、販売分も好調。また、各調査事業の成果を随時展示や報告書で公開することができている。</p> <p>○文化財指定については、久福寺木造大日如来坐像を新たに県指定とし、耶馬溪橋については、急遽国指定を目指すこととなり、調査を重ね意見具申までこぎつけることができた。</p> <p>○地域計画策定については、市内を5つのエリアに分け、地域の方々に未指定文化財を含めた調査を行ってもらい、貴重なリストを作成することができた。</p> <p>○文化財収蔵施設は、収蔵計画を作成し、移動を見据えた整理作業を計画的に行っている。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○文化財の適切な保存や魅力的な活用は、全て地道な調査の積み重ねがあつてこそである。今後も各分野の調査研究、及び文化財の保後に取り組むとともに、保護活動に市民を巻き込むことで文化財保護精神の醸成につとめる。</p> <p>○地域計画は、今後の中津市の文化財行政の方向付けをする大切なものであり、当初計画通り令和5年度の策定を目指して、早急に軌道修正を行い計画通りの令和5年度完成を目指す。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
23	3	M	文化財整備・活用の推進	<p>適切な調査をもとに、文化財の公開に必要な修理事業・整備事業を実施する。また、文化財の公開・活用・情報発信に努め、文化財の価値の周知をはかる。</p> <p>○薦神社神門・福澤旧居・神尾家住宅の修理事業を実施し、可能なものについては情報公開・経過の公開を行う。</p> <p>○長者屋敷官衙遺跡の整備を進めるとともに、市民に愛される史跡公園を目指してⅡ期工事の整備方針の検討を行う。</p> <p>○慶應義塾大学と連携した中津の偉人の調査をはじめ、各分野の調査研究の成果を、刊行物や展示、講座等を通じて、市民に還元する。</p> <p>○SNS やメディアを積極的に活用する。</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○薦神社・神尾家については、現状の変化にも対応しながら計画通り進めており、随伸像特別公開等、随時情報発信も行っている。福澤旧居については、屋根の傷みが進んだことから、文化庁や文建協の指導をうけ検討した結果、令和3年度は応急処置を施し、4年度以降一帯を含めた保存管理活用計画を策定するスケジュールの検討をはじめている。</p> <p>○長者屋敷官衙遺跡は計画通り整備を進め、令和4年度末に共用開始を目指すことから、市民に楽しんでもらう企画を検討し令和4年度補助事業として申請することができた。</p> <p>○慶應義塾大学との連携事業は調査成果を活かした企画展を2度開催。新型コロナの影響をうけながらも、市民講座等を積極的に行い、調査の成果を市民に還元している。</p> <p>○SNSを積極的に活用することで、博物館の集客や、刊行物の売り上げに着実に効果を上げている。</p> <p>○その他、沖代条里土水路整備については、工事の機会を利用して九州大学・市民とともに生物調査を行い価値の周知を図った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○長者屋敷官衙遺跡は令和4年度末に共用開始を目指しているが、現実にはトイレや日陰がなく、利用してもらうには厳しい環境である。4年度は利用者の声を集め、将来のⅡ期計画にむけた検討を開始する必要がある。</p> <p>○福澤旧居は令和5年度、6年度に補助事業にて保存管理活用計画を策定する必要がある、4年度は、その準備をおこなわなければいけない大切な年である。「不滅の福澤プロジェクト」をすすめながら、将来を見越した保存活用について文化庁の指導を仰ぎながら取り組んでいく必要がある。</p>	4	B	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
24	3	M	博物館を核とした中津市の魅力発信	<p>資料収集とともに適切な保存を行う。観光部局との連携を強化する。新中津市学校、福澤旧居と連携した魅力発信。市民が運営に参加する参加型なかはくを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の収集と保管、データベース化の推進。 ○学校教育との連携強化。 ○展示や企画の開催・集客・周知にあたって、観光部局と連携して取り組む。 ○市民が主催者側にたつ企画開催を推進する。 ○耶馬溪風物館・大江医家史料館・村上医家史料館の運営方針を検討する。

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○学芸員は保存の研修を継続的に受け、技術を磨いている。また、なかはく展示室を別府大学の保存環境の研究の場として提供し、細部にわたり環境チェックを行うなど、資料の保護に努めている。所蔵資料は、国や大学の機関を利用してデータベース化と公開を進めることで、他館や研究者からの資料の利用実績をあげている。</p> <p>○コロナ禍においても学校と連携して体験学習等実施した。新たに市外修学旅行生の受け入れも行った。APU や日本文理大学とも連携事業を行った。</p> <p>○観光部局とは定期的に連絡会議を設けており、日本遺産事業では市の観光・玖珠町とも頻繁に会議を持ち活動できている。</p> <p>○令和3年度は初めて市民サポーターが展示の一部を担当した。さらに古代グッズ作家とコラボした「ひたすら古墳を愛でる展」は県外の新聞やNHK 全国ニュースで取り上げられるほど話題となった。市民とともにグッズを開発する企画や、カフェと古代モチーフのスイーツ開発を行い、メディアで頻繁に取り上げられた。</p> <p>○風物館は日本遺産ガイダンス施設として、展示内容と今後の運営について具体的な検討に入った。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○博物館は令和元年11月に開館して、約2年半がすぎた。その期間常に新型コロナウイルスとの戦いを強いられてきた。感染拡大状況によるが、令和4年度は、当初目指していた博物館像の実現にむけて舵を切る年である。入館者面の課題としては、大人と同じ料金となる高校生の利用者が少ないことや、講演会等の参加者が固定されてきたことがあげられる。これまで足を運ばなかった層へ訴えかける取り組みが求められており、市内各館を含めた博物館活動のさらなる魅力アップに取り組む必要がある。</p>	4	A	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
25	4	N	教育委員会の機能強化	<p>総合教育会議等を通じて市長と教育委員会が緊密な連携をとり、両者が教育行政の方向性を共有し、より一層地域住民の意向を反映した教育行政の推進を図っており、引き続き市長部局との連携強化を行う。また、教育現場の実態把握と関係機関との意見交換、教育委員の視察、研修機会の拡充を図る。</p> <p>○総合教育会議などの市長と教育委員会が連携を図れる会議等を開催する。</p> <p>○学校現場を訪問するなどして、県等関係機関と教育行政についての意見交換を行う。</p> <p>○先進地視察など教育委員の研修機会の拡充に努め教育行政について研鑽を重ねる。</p>

達成状況	R2		R3		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
<p>○総合教育会議を年1回開催（令和4年2月9日開催）し、協議・調整を行った。</p> <p>○前年度は県教委の学校訪問に同行する形であったが、今年度は市教委として学校訪問を実施することが出来た。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大に伴い会議や行事の自粛・縮小せざるを得ない状況下においても、必要な完全防止対策を講じた上で臨時の教育委員会を開催し、情報共有に努めた。</p> <p>課題及び来年度に向けての方向性</p> <p>○収束の見通しが立たない新型コロナウイルス感染症の影響により、教育を取り巻く環境や教育現場の状況が大きく変化していく中、多様化する課題を的確に把握し、迅速に対応するため、学校訪問や教職員との懇談会等に各委員が積極的に参加・出席し、現場の声に耳を傾け、現状や課題の認識を行っていく。</p> <p>○総合教育会議の議題については、相互からの問題提起ができるよう、引き続き市長部局と教育委員会がさらに密な連携・協議が出来る体制を構築していく必要がある。総合教育会議も含め、市長と教育委員会が連携を図り、より一層民意を反映した教育行政を推進していくことが求められる。</p>	4	B	4	B	教育総務課

まず、報告書から読み取れる限りにおいて、各施策の達成状況についての所見を述べます。

1. 学びたい教育のまちづくり（学校教育）

(A) 学校教育の充実（義務教育の充実）

・ 確かな学力の育成

近年の全国学力・学習状況調査において大分県の児童生徒が好成績を収めていることに照らせば、本市が全ての小中学校で全国平均以上を目指すという目標の設定は、妥当なものであると考えられます。結果を見ると、全国平均以上の中学校は令和 2 年度の 5 校から 6 校に増加したものの、小学校は令和 2 年度の 16 校から 13 校に減少しており、目標達成のためには、特に低学力層の底上げにつながる取組が望まれます。ICT 活用教育の推進については、90%の児童生徒がほぼ毎日タブレット端末などの ICT を使った学習をしており、授業における ICT 活用が進んでいることが窺えます。中学校で英語科の基礎・基本の定着に課題があるようですが、この種の課題の解決にも ICT 機器は有効であると考えられるので、さらに充実した取組が期待されます。

・ 組織的ないじめ・不登校対策の推進

不登校の状況にある 1,000 人当たりの人数の推移を見ると、小学校は令和 2 年度の 10.2 人から 7.4 人と減少しており、小学校の目標値 6.0 人に近づいたのに対して、中学校は令和 2 年度の 34.2 人から 41.3 人と増加しており、中学校の目標値 33.0 人を大きく上回る結果となりました。このことには、新型コロナウイルス感染症への対応を迫られる学校のさまざまな状況が影響しているとも考えられますが、増加の要因の把握・分析と、それに基づく適切な対応・支援が望まれます。いじめの認知件数については、小学校、中学校ともに若干の増加が見られますが、これは教員が注意深くていねいに児童生徒の様子を観察し、いじめを認知した際に隠さず報告しているということも意味しているので、そのような姿勢が維持されることが望まれます。いじめの解消率については、中学校において 6.7 ポイント上昇して 85.9%となっており、解消率上昇の要因と考えられる取組の充実が期待されます。

(B) 学校教育の充実（小・中・高・短期大学との連携促進）

・ 新しい時代に必要な総合力の育成

求められる英語力を有する中学校 3 年生の割合が 32.7%から 41.8%へと 9 ポイント以上増加しているのは、取組の成果として評価できます。今後は目標とする 50%の達成に向けて、さらに充実した取組が期待されます。また、新型コロナウイルス感染症の影響で English Camp は中止となったものの、オンラインで実施した中学生の英会話の参加者の満足度が 100%、人数を制限して実施したわくわく英語ひろばの参加者の満足度が 100%と、児童生徒が楽しんで参加でき、かつ内容の充実したプログラムが提

供されていることが窺われます。小学校教職員対象のティーチャーズオンライン英会話教室の開催も、ICTを活用した指導者スキル向上の取組として評価できます。

(C) 学校教育の充実（幼児教育の充実）

・幼稚園教育内容の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる研修や協議会がある中、参加人数を絞って中津市保幼小連携研修会を実施したり、2回に分けて第2回中津市保幼小連携協議会を開催したりするなど、保育所や幼稚園、こども園と小学校との円滑な接続に向けた取組が行われています。その中で、園児や小学校1年生の様子の情報交換や、小学校区を単位としたグループ協議で授業実践交流を行うなど、具体的で実質的な活動が行われていることが窺われます。

(D) 安心安全な学校施設の計画的整備促進

・安心安全な学校施設の計画的整備

小学校3校、中学校3校のトイレ洋式化改修を実施し、校舎におけるトイレ洋式化率が目標値の85%を上回り95%となるなど、中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、教育環境の改善が適切に実施されています。屋内運動場や武道場、屋外のトイレについても、改修未実施校を対象とした洋式化改修を進めることが望まれます。

(E) 学校給食の充実

・地産地消の推進

はものすり身やべたの一夜干し等の中津市産の食材を給食に取り入れたり、中津市産の食材の新たな調達先を模索したりするなど、地産地消の推進に取り組んでいる様子が窺えます。今後は、地産地消の学校給食を通して児童生徒が生産者や郷土への関心を持つことのできるような具体的取組が期待されます。

2. 学びたい教育のまちづくり（生涯学習・産業教育の推進）

(F) 生涯学習の推進

・生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティーセンターの利用促進

市主催の公民館講座等の参加者の減少、一部の自主サークル活動の中止、公民館等で開催される祭りの中止など、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響が見られます。そのような中でも、ワクチン接種や感染防止対策の実施により、公民館等の年間利用者数が令和2年度より増加していること、公民館等の建設事業を計画通り進めることができたことは、次年度につながる成果であったと言えます。感染症収束後の活動再開に当たっては、特に高齢者はコロナ以前と比べて身体の状態や行動様式がかなり変わってしまっていることが予想されるので、その点も含めた対応が望まれます。

・学習機会の拡充と学習効果の活用

ふるさと学習については、三保人形劇クラブのように練習成果を披露する万年願が中止になったところもありましたが、全国高等学校弁論大会をはじめとする福澤諭吉記念事業、子ども中津検定、中津ジュニア歴史ガイドなどが実施されています。これら

は、郷土の歴史や先人の業績に根ざした児童生徒の学習機会の拡充と学習効果の活用のための取組として評価できます。

- ・ 新中津市学校の活用

高校生向け講座は中止されたものの、慶應義塾より講師を招聘した市民講座を、オンラインを併用しながら実施したこと、慶應義塾大学との共同研究として小幡篤次郎関係資料整理、小幡著作整理作業、渡辺家資料整理等を行い、その成果を展示の形で市民に還元したことは、郷土資料の発掘と成果の公開という観点から高く評価できます。メディアの取材対応に加えて、学校への出前授業を行うなど、情報発信についても積極的な姿勢が窺えます。

(G) 教育の協働の推進

- ・ 協育による中津の子ども未来創造事業の充実

令和 3 年度より全中学校区で学びのススメ土曜塾を実施したり、感染防止対策を徹底した上で放課後子ども教室を実施したりして、児童生徒が地域住民と交流しながら学ぶ機会を保障する取組が行われています。感染症収束後は、地域人材の活用という観点からも学校支援活動の活性化が望まれます。

(H) 生涯学習センター「まなびん館」の充実

- ・ 生涯学習センター事業の推進

生涯学習センターの年間利用者数は、令和 2 年度より増えたとは言え、コロナ以前よりは少ない状況となっており、新型コロナウイルス感染症の影響が強く表れています。開講式や閉講式、大学祭も中止となるなど、生涯学習の停滞を余儀なくされる状況ですが、感染症収束後の各種活動の再開が期待されます。

(I) 産業教育の推進

- ・ 体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進

令和 3 年度もキャリア教育の一環としての職場訪問を実施できなかったことは、学校としてはとても残念なことであったと推察します。学校は資料や ICT の活用によって失われた職場体験の機会を補う努力をしていますが、やはりそれぞれの職場に行つて、そこで働いている人たちと交流して、自分が実際に仕事をしてみることによる学びは、かけがえのないものであると思われます。感染症収束後は、そうした職場体験の意義を再確認できるような仕方での職場訪問の再開が期待されます。

- ・ 多様な体験の場の活用

職人フェスティバルの中止、少年少女発明クラブの活動の縮小は、やむを得ない措置であったと思われます。感染症収束後の活動再開が期待されます。

(J) 図書館の充実

- ・ 図書館機能の充実

落ち込んでいた貸出冊数、利用者数は、個人利用においても団体貸出においてもかな

りの回復傾向が見られ、明るい兆しが認められます。他の多くの文化施設等が徒歩で移動できる範囲内にあるという恵まれた立地を生かした文化ゾーンの確立が期待されます。

- ・ 読書活動の推進

感染対策を施し、安心して来館できる環境づくりを行い、赤ちゃん絵本の読み聞かせや夏休み工作あそび教室、小学生図書館バックヤードツアー、さらには、中津市歴史博物館の特別展示とコラボした企画展示を実施するなど、工夫をしながら読書活動の推進に努めていることは評価できます。

3. 学びたい教育のまちづくり（文化・スポーツの推進）

(K) スポーツの振興

- ・ 生涯スポーツの推進

中止となるイベントもある中で実施された、野球で東京オリンピック代表の甲斐拓也選手の自主トレの開催は、スポーツやアスリートと触れ合う貴重な機会になったと思われま

- ・ 競技力向上及びジュニアの育成

全国的に中学校における部活動改革の取組が始まる中、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの存在、そこでの指導者資格を有する人材の育成と確保は、重要度を増していくと考えられます。将来のあるべき姿を見通した計画的な取組が期待されま

- ・ 市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用

体育施設予約ポータルサイトの稼働やカード決済の導入は、施設利用者の安全性や利便性向上の取り組みとして評価できます。耶馬溪 B&G 海洋センターに見られるように、利便性向上のための施設の改修も適切に実施されています。

- ・ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致活動

マレーシアのオリンピック・パラリンピック選手団の事前キャンプが中止されたのは、やむを得なかったと思われま

(L) 文化・芸術活動の推進

- ・ 文化施設の充実

中津文化会館及びリル・ドリームの音響設備更新、その他必要な設備修繕を行うなど、適切な施設整備が進められています。

- ・ 文化芸術活動の推進

中津文化会館において、感染症対策を徹底した上で、劇団四季ファミリーミュージカルや滝川鯉斗独演会等を開催したことは、市民が文化に触れる機会を提供しただけではなく、このコロナ禍の状況においては、明るい希望を感じさせる機会にもなったと思われまます。木村記念美術館においては、美術の企画展に加えて、光のアートイベントや若手アーティストの個展を開催するなど意欲的な取組が行われており、評価できます。

(M) 歴史と文化の伝承

・ 文化財調査の充実と保護の促進

地域の歴史的財産である羅漢寺や相原廃寺、久福寺木造大日如来坐像や耶馬溪橋について、地道な調査と保護、そして公開の取組が続けられています。特に、中近世城館調査は、良い意味で地域住民を巻き込んだ形で9年にもわたって行われてきたもので、住民と行政が一体となって地域の歴史を大切にす取組として高く評価できます。この種の活動は人目を引く派手さはありませんが、少し長い目で見れば、地域の歴史への市民の理解を深めたり、博物館や美術館の展示内容を提供したり、調査の成果を外部に向けて発信したりすることなどによって、地域振興にも貢献し得る重要な活動です。今後もいっそうの発展と充実が期待されます。

・ 文化財整備・活用の推進

薦神社・神尾家、福澤旧居について、保存や修理等の取組が適切に行われています。計画に従って整備が進められてきた長者屋敷官衙遺跡の供用が期待されます。

・ 博物館を核とした中津市の魅力発信

学芸員が継続的に保存の研修を受けていること、所蔵資料をデータベース化して公開していることは、博物館の活動を根本から支え、中津市の魅力を発信する取組として評価できます。また、学校と連携して体験学習等を実施したり、市外から修学旅行生を受け入れたり、市民サポーターが展示の一部を担当したりするなど、開かれた博物館づくりの姿勢が窺えます。その一方で、高校生の利用者の少なさや講演会等の参加者の固定化などの課題も挙げられているので、工夫のある企画が期待されます。

4. 学びたい教育のまちづくり（教育委員会活動の充実）

(N) 教育委員会活動の充実

・ 教育委員会機能の強化

感染対策を施した上で、総合教育会議や市教委としての学校訪問、教育委員会などが適切に実施されています。

最後に、総合的な所見を述べます。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、感染対策の徹底やさまざまな工夫により、計画した事業を部分的であれ確実に実施することができ、一部では各種の活動への参加者数、施設の利用者数が回復するなど、明るい兆しが少しは見えた一年であったと思われまます。

その中でも、利用者へのきめ細かなサービスを提供している図書館や、令和元年に新しく開館した中津市歴史博物館の各種の活動については、今後いっそうの発展的な取組が期待されます。すでに両館がコラボした企画展示等が実施されているようですが、報告書においても言及されているように、図書館や博物館が、美術館等の近隣の文化施設と連携した文化ゾーンの確立が望まれます。これらの文化施設等が徒歩で移動できる範囲内にあるというのは本市の強みであり、例えば目的別のまちめぐりのモデルコースを設定したりすることができれば、市民にとっても市外からの訪問者にとっても魅力的なまちづくりにつながると考えられます。

また、住民と行政が一体となって地域の歴史を大切にし、さらには、子どもたちが地域の歴史を学び、先人の業績に学ぶ機会が具体的な形をとっていることも本市の特徴と言えます。どの地域にも歴史はあり、地域の発展に尽力した先人はいるものですが、本市においては全国高等学校弁論大会や諭吉かるた大会などの福澤諭吉記念事業、子ども中津検定、ジュニア諭吉検定等が行われており、子どもたちが楽しみながら地域の歴史を学んだり挑戦したりするさまざまな機会を提供しています。特に、中津ジュニア歴史ガイドは、子どもたちが実際にガイドを務めることによって学んだことを発揮する機会となっており、学習効果の活用という観点からも評価されるべき取組です。

その一方で、課題もあります。その一つは、中学校の部活動改革に伴う今後の子どもたちのスポーツ・文化活動の指導体制の在り方です。報告書においては、総合型地域スポーツクラブの創設、スポーツ少年団の指導者資格の取得促進等についての言及がありましたが、この課題の解決には、学校や自治体の担当部署だけではなく、スポーツクラブやスポーツ少年団はもちろん、スポーツ協会や各種の競技団体、あるいは、指導者資格を有する個人などを含む幅広い組織や団体、個人との連携が必要になってくると考えられるので、広い視野を持った計画的な取組が望まれます。

IV おわりに


『中津市教育振興基本計画』においては、計画期間を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」を基本として


- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境づくり

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

令和３年度においては、４項目を施策別基本目標、２５項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDC Aサイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

